

# 金子兜太先生のふるさと投句 第二回特選・入選作品

選者 秩父郡市俳句連盟会長 金子 千侍先生

## 特選

結願寺秋海棠にも頭垂れ

高松市

辻 文栄

## 講評

皆野町日野沢三十四番札所・水潜寺は、秩父札所の結願寺であり、又坂東・西国・秩父百観音、百番目の結願寺であります。踏石の下には全国百観音の砂が埋められ、就中、この踏石（砂）に立てば、水潜寺一寺参りにて、百観音をお参りしたことになると思います。大仕事をされた巡礼者に、その季の花秋海棠も深々と頭を垂れるのであります。

天界の父母を語らふ秋遍路

千葉市

河野 悦子

## 講評

遍路の語源は、空海修行の地、四国八十八ヶ所を巡礼することでありますが、坂東、西国・秩父の札所を巡礼することもお遍路さんといえます。俳句の季語は春でありますので、掲出句の場合には秋遍路となります。作者は今、秩父仏界浄土の巡礼者となって、天界の極楽浄土に御座す御両親とお会いし、諸諸懐しく語り合うのであります。

秩父路の通草の熟れて満願す

つくば市

池辺 眺

## 講評

作者は恐らく何週かに分けて（毎週土・日とか）秩父札所の巡礼をされたのでしよう。巡礼の初めの頃は通草の実も青く小さく硬かったです。それが三十四番水潜寺で満願と成就となった時、通草の実もすっかり熟れて、大きく口が割れていたのです。熟れてゆく通草の実と供に巡礼された如何にも秩父らしいお遍路でありました。型破りの美しい叙事誌のような一句であります。

## 入選

大人の部

波打って秩父へ続く罫雲

さいたま市

関根 紀恵

うれしきは夫の足どり萩の花

狭山市

松本 きみ枝

蕎麦の花かつては絹で栄へたる

さいたま市

増田 信雄

里の道機音紡ぐきりぎりす

秩父市

設楽 キマ

投句箱初日を受けて静かなり

秩父市

橋本 きいち

萩寺の兜太の句碑に黄蝶舞ふ

佐倉市

臺 きくえ

掃き清む僧の背後に散るもみじ

秩父市

林 瑞岳

秩父路やびめを飾りし冬花火

皆野町

吉澤 光昭

錦秋の秩父は味噌の眠る里

上尾市

栗林 浩

三世代揃ひ麦踏む音頭の地

大和市

原島 勝子

三代揃ひ麦踏む音頭の地

小鹿野町

原島 勝子

小人の部

ひまわりが太陽ながめまねしてる

皆野町

野巻 花帆 (十歳)

しば桜空へとつづく花畑

皆野町

桜井 茜 (十歳)

秋休み初めて来たよ美の山に

千葉市

高橋 卓巳 (十歳)

みつけたよきれいな夕日と赤とんぼ

皆野町

金原 佑奈 (十歳)

星ぞらがうちあげはなびよんでいる

皆野町

山下 偉吹 (九歳)